令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言
教務部	校務遂行のための協力体制の構築	主任会を通して他分掌との連携を図り、学校行事の円滑な運営に努める。	必要に応じて主任会を開催する。	3.8	4.0	☐ 「諸業務の締切」を随時明示することで、校務を円滑に遂行することができた。次年度は、「業務の見える化」を推進し、より適切な役割分担を行うことが必要だと考える。 ☐ 学力向上、授業改善を推進するために相互授業参観期間を設定し、参考になる事項を共有することができた。次年度は、「授業準備期間」を年度当初に設定し、進捗や評価の年間計画を明確にした上で授業が実施できる体制を整えていく必要があると考える。 ☐ 授業時間数の確保については課題が残る。次年度は、行事等で授業が欠ける際に偏りが出ない工夫をする必要があると考える。 ☐ 生徒募集については、全職員で最善を尽くすことができた。次年度は、スクールミッションに立ち返り、「主体的に社会と関わり、地域の発展に貢献できる人材」を育成するために、「本校の強み」を改めて検討する必要があると考える。 ☐ コース制の検討を含め、「学校のあり方」について再検討する時期にきているのではないかと。 ☐ シラバスのタブレット配信を行うことができなかった。 ☐ 会議や研修が審査期間中に入りすぎている。採点や成績処理業務のことも考慮すべきである。 ☐ 教務の業務量が多すぎる。やらなくていい業務がないか検討すべきである。 ☐ 審査期間前のEトレ実施の有無については再度検討が必要なのではないか。
		職員間の情報伝達を確実にするため、白板・ポータルサイトを効果的に利用する。	白板への連絡事項書き込みは前日までに行う。ポータルサイト・Newsメールを1日1回は確認するよう呼びかける。	4.0	4.0	
	学力向上推進 授業改善の推進	行事の精選や時間割の調整・変更を行い、授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.8	2.8	
		シラバスを作成し、より充実した学習活動に取り組む。観点別評価について研究に努める。	年度末に進捗表、4月中にシラバスを作成する。シラバスはタブレット等で公開する。	3.0	2.8	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	授業力向上・相互授業参観期間を年に2回設定し、気づきや改善点を全職員で共有する。	3.4	3.6	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追指導・補講に取り組む。	学年末の追認審査及び追認補講を受ける生徒を、前年度より少なくする。	3.0	3.4	
	学習指導の創意工夫	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月上旬までに終了	3.0	2.8	
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通して行う。	3.0	2.2	
	地域から信頼される学校	HP・学校だよりを利用して学校の情報発信に努め、地域社会及び中学校との連携を深める。	HPは随時更新する。学校だよりを作成し、各家庭へ配付するとともにHPにも掲載する。	3.8	3.8	
		PTAとの相互理解を深め、活動の活性化を図る。	各種行事の参加案内を2週間前を目途に配付するとともに、メールメイトでも周知する。	3.8	3.6	
	教員の資質向上	各種職員研修や報告会を定期的で開催する。	教務、生徒育成、保健相談に関わる研修会を各1回以上行う。 (教務部研修テーマ：観点別評価総括方法、指導と評価の年間計画等)	4.0	3.8	
		各種研修会と、研修の充実を図る。	学期に1回は行う。	3.8	3.8	
		ICT（タブレット端末を含む）を活用した指導法の研究に努める。	公開授業を年間を通して行う。 ICTの活用事例を紹介する。	3.0	3.4	
	読書活動の推進と図書館の充実	「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝の読書」を実施する。	3.6	3.4	
生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実に努める。		年2回以上希望図書の購入をおこなう。	4.0	4.0		

令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言	
生徒育成部	生徒指導分野	基本的生活習慣の確立	容儀指導の徹底を図る。	年間8回以上の容儀検査を実施し、再検査の指導を粘り強く行い、違反者を0にする。	3.4	3.4	<p>・ 概ね落ち着いて生活ができています。1月末現在、校長訓戒以上の特別指導は一件(4名)のみであった。ただ、容儀指導で不合格になり、合格になるまでの時間を要する生徒が数名いた。</p> <p>・ 校則の見直しや指導方法の変更等、いくつかのものに手を付けることができた。生徒による校則見直しチームも結成できたので、来年度は生徒、保護者、先生方の意見を入れた見直しをさらに進めていきたい。</p> <p>・ 登校指導や下校指導・校外巡視は先生方のご協力で計画通り実施できた。</p> <p>・ 他分掌、学年・クラスと情報の共有をしながら指導にあたることができた。先生方のご協力に感謝したい。</p> <p>・ 生徒、先生方の協力により、多くの生徒会行事をスムーズに実施できた。</p> <p>・ 生徒会会則見直しや部活動の1年生全員入部の在り方など、来年度に向けて検討したい。</p>
			公と個の場面を理解して、自らの行動を律することができるようにする。	特に集会時の無言整列については徹底して指導する。	3.6	3.6	
			生徒の自主性を育む。	生徒必携のスケジュール欄を活用して、生徒に自己管理をさせる。	2.7	3.0	
			授業の開始時間を厳守させる。	全教員が意識して取り組む。特に8:25入室着席を徹底して指導する。	3.2	3.4	
	公共心の育成	乗車マナーの向上を図るため、公共交通機関の乗車指導を徹底する。	JR・鳥鉄・バス利用の通学生集会を年2回実施する。	3.7	3.6		
			駅や学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	毎朝の登校指導に力を入れる。考査期間には職員で校外巡視を行う。	3.8	4.0	
		生活美化委員会の充実	挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり「挨拶運動」を推進する。	生徒会と協力して「挨拶運動」を計画する。	3.8	4.0	
			掃除の徹底を図り、清潔な学習環境づくりに努める。	学期に1回、生活美化委員による掃除の実施状況の点検を行う。	3.5	4.0	
	分掌・学年等との連携	駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	自転車通学生集会を年2回実施する。	3.8	4.0		
			各学年・各分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	生徒の実態把握を深めるために必要な情報を共有する。	3.8	3.8	
	生徒会指導分野	自治能力の育成	リーダー研修によるリーダーの育成を図り、定期的な総務委員会を運営し、生徒の自主性を育む。	随時	2.9	3.2	
		活動の活性化	挨拶を励行し、生徒会スローガンの実現へ向けた取り組みを行う。	生徒会総務で一学期あたり5回以上の挨拶運動を行う。	3.6	3.8	
			各行事がより活性化しよう内容を工夫し、スムーズな運営に努める。	行事の一週間前までに要項を作成し、生徒への周知を図る。	3.5	3.6	
			各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	学期毎に委員会の目標・活動内容を教室掲示し、必要に応じ全校集会等で周知する。	3.2	3.6	
全員部活動制の意義について共通理解を図り、各学年と連携して、無所属生徒の部活動編入を勧める。			入学時に丁寧な説明をするとともに、特殊事情のある生徒に配慮しつつ、原則として全員入部とする。	2.9	3.2		
活動等の見直し		部室の使用状況を定期的にチェックし、部室を適正に使用するよう指導する。	年間4回部室の清掃を行い、定期的にかぎの返却状況をチェックする。	3.8	4.0		
	会則・内規・申し合わせ事項の運用状況を確認し、必要に応じて見直しを図る。また、長期的な展望に立って生徒会予算を編成する。	2学期終了までに部内で検討を行い、3学期の部顧問会・職員会議に諮る。		3.4			

令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期 評価	年間 評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言
進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	進路希望調査実施と学力向上につながる補習・模試の実施	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を年3回実施 Eトレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施 各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施 ICT推進担当と連携をとり、ICT教育の環境を整備する。 	3.6	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 補習や小論文指導については、3学年や国語科と連携を深めながら行うことができた。多くの生徒の進路が決まっていく中、私立大学一般入試の生徒の指導など、まだまだ続いており、関係の先生方に感謝するとともに、最後の一人の生徒の進路決定まで、確実に行っていきたい。 1月に入ってからは、2年生の進路について、2学年団と協力しながら、進路学習を進めている。進学・就職どちらも、まずは意識の向上を喚起するとともに、オープンスクールや企業訪問の計画を立てさせたい。 各学年とも進路の集会を適時に行うことができた。2月には、3年生による進路講話が行われるが、このときをいい機会とし、1年生も2年生も進路について具体的な方向性を見つけさせたい。進路について漠然としか考えていない生徒もいるため、考える材料をしっかりと提供していきたい。 3年生に対する面接指導は、進学も就職も多くの先生方の協力があり、十分になされていた。先生方に感謝するとともに、1、2年生においては普段からの言葉遣いや挨拶などを意識させたい。 今年度は2年生の企業面談会を2度行うことができた。(12月の県央振興局の分が参加できないかもしれなかったために、7月の3年生対象の分も参加していた)このことで、生徒たちの意識は少しは向上したかと思われる。 今年度は、求人票情報や指定校推薦の情報を3年生に公開すると同時に1、2年生にも公開することができた。意識の高い生徒は見えていたようだが、そうでない生徒にもっと知らせる必要があったかもしれない。 最終的な目標を具体的に立てる必要がある。それを達成するための手立てを、無理がないように計画したい。
		進路実現のため全職員による進路体制の確立		3.3	3.3	
		Eトレ、補習・長期休業中の学習会で学習習慣の定着		3.1	3.3	
		ICT（タブレット）を活用して「主体的な学び」の推進		3.6	3.4	
	個々の進路意識の高揚	早期の進路目標の確立	<ul style="list-style-type: none"> 講演会や進路集会を各学年2回開催 2年次でインターンシップを実施 小論文・教科の添削指導 受験前に5回以上の模擬面接 企業面談会・職場見学への参加 	3.1	3.2	
		インターンシップで職業観の育成		3.4	3.5	
		個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		3.3	3.4	
	進路情報の提供 進路室の有効活用	進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスに進路情報誌等を配布 タブレットを用いて求人情報や指定校推薦の情報を提供する 進路資料室を解放し、生徒の進路情報に触れる機会を確保する 	3.3	3.4	
		進路情報の提供を細かく行う		3.3	3.5	
		模試データを分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		3.3	3.3	
		進路情報のデータの系統的整理整頓		3.1	3.4	

令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間12回発行し、啓発する。	4.0	4.0	<p>○具体的な方策については、各項目とも実施できている。生徒の良い方向への行動変容や課題解決に至るには、困難なこともあるが、学校全体のチーム全体で協力して取り組めるようにしていきたい。</p> <p>○いじめ悩み調査は、実施後の聞き取りや追跡調査は徹底されていた。いじめ対策委員会も計画通りに実施できた。</p> <p>●各学年への回覧はできたが、検査結果の分析や伝達が十分にはできていなかった。</p> <p>●新入生の生徒情報について、現在は4月の入学式前に全職員で情報伝達を行っているが、忙しい時期でもあるため、職員への周知の時期や方法を検討する必要がある。</p> <p>○担任の先生方のご協力により、情報共有を行い、生徒支援に繋がることができた。</p> <p>○発達障害に関する研修を、次年度も実施した方がよい。</p> <p>○計画的に実施できていた。</p> <p>○生徒の実態に応じた内容の研修会を実施することができた。</p> <p>●困り度チェックを活用できていないが、困っている生徒の指導支援については、担任の先生と協力して行っている。</p> <p>○場の設定は行えていないが、日々の担任の先生とのやり取りを通して、指導の改善に務めている。</p> <p>●通信を7回発行できなかった。</p> <p>○担任や保護者との情報共有をすることができていた。</p>
		健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	4.0	4.0	
	安全で衛生的な教育環境の整備	救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	4.0	4.0	
		安全安心な教育環境の構築	安全点検を毎月・安全衛生委員会を年3回開いて、問題点の解決を図る。	4.0	4.0	
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの整備	来室しやすい相談室となるよう心掛ける。	4.0	4.0	
		不適応生徒の早期発見・支援	日頃から担任・学年との情報共有を図る。	3.6	3.9	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・悩み調査を年5回実施し、実施日から2週間以内にいじめ対策委員会にて結果を報告し、迅速な対応をはかる。	4.0	4.0	
		生徒理解のための心理テストの実施と活用	テストバッテリーM2+検査の報告会を、1学年に1学期中に実施し、検査結果を各学年の教員へ回覧する。	3.8	3.5	
	各分掌・学年・SC・SSW・保護者・中学校・外部機関との連携の深化	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや担任・学年との連携の強化	SC、SSWの来校日には、SCまたはSSWと担任、保健相談部でコンサルテーションを毎回実施し、適切かつ迅速な対応を行う。	4.0	4.0	
		事例研究等をすすめる、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	合格者発表後、中学校訪問を実施し、新入生に対する適切な支援・指導に役立てるために、中学校訪問報告会を実施する。また、在籍する生徒の実態に応じて、職員研修を年間2回行う。	4.0	4.0	
	地道で円滑な奨学金の手続きの支援	各種奨学金の紹介、手続きの徹底	必要に応じて、生徒・保護者への説明会を行う。	4.0	4.0	
	教育活動の土台としての人権教育の推進	生徒の自尊感情・思いやりの心の育成	講演会（年2回）を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。		4.0	
	特別支援教育の充実	新入学生徒の実態把握、及び個別の支援や通級による指導の必要性の判断	中学校からの引継ぎ事項や困り度チェック等を参考に担任との面談を実施し、保健相談部と情報共有を行う。	3.5	3.6	
		複数の目による支援や指導の方法の検討と評価	各学年会で「個別的教育支援計画」「通級による指導」の内容等の検討、学期末の評価を行い、その後の指導改善を図る。	3.8	3.8	
		特別支援教育に関する情報の発信	EAST Compass通信を年間7回程度発行する。また、個別的教育支援計画を担任や学年団、特別支援教育Co.とで協力して作成する。	3.8	3.8	

令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言
事務部	組織的取組の推進	学校窓口としての認識（丁寧な来客・電話対応等）	日々の対応について心がける。	4.0	4.0	目標は達成はできている。 多くの職員との協力、サポートのおかげで、円滑な業務運営が行えた。 協働体制が構築できていたことが、満足できる結果を生み出したものとする。
		教育行政の円滑化（県教委・校内各担当者との迅速な報告・連絡・調整）	案件ごとに対応する。	4.0	4.0	
	適正な会計処理	公費…長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行	案件ごとに対応する。	4.0	4.0	
		私費…適正な会計処理と、教育職員へのアドバイス	会計処理ごとにチェックを行う。	4.0	4.0	
	教育環境の整備	快適で質の高い施設設備の充実（維持補修・施設整備計画の策定と令後の迅速な執行）	年1回要求、緊急案件については随時要求。令後は早期執行する。	4.0	4.0	
		計画的な環境整備 安全点検報告箇所への迅速な対応	環境整備については随時行う。毎月1回の安全点検結果で報告された箇所について迅速に対応する。	4.0	4.0	
1学年	育てたい生徒像	気持ちの良い挨拶の励行、礼儀や言葉遣いの指導を徹底し、集団生活を営む力を持った生徒を育てる。	始業時・終業時はきちんとした挨拶を徹底させる。職員室や授業中の言葉遣いで不適切なものがあれば、その生徒に応じた指導を行う。	3.0	3.3	・先生方のご尽力で、本校生徒としての自覚が高まってきた。 生徒の観察と情報共有及び対応は、おおむね円滑にできている。 ・行事などへの積極的な取り組みが不十分な生徒もいたため、今後は中堅学年としての自覚を促していきたい。 ・課題提出が遅れがちな生徒が少なくないため、家庭学習を習慣化させる必要がある。
		端正な身なり、時間厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせ、高い規範意識を持った生徒を育てる。	容儀検査だけでなく、普段から全職員で生徒を観察する。提出物の期限や授業開始の時間を厳守させる。	3.3	3.3	
		学校への帰属意識が高く、自己肯定感持ち、自信に満ちた生徒を育てる。	学校行事・総合的な探究の時間・部活動・生徒会活動・ボランティア活動等に積極的に参加させ、一人一人が主役となる場を提供する。	3.3	2.8	
	生徒基点の発想による一人ひとりを大切に する教育の実践	生徒や保護者との面談を積極的に行って情報を共有し、保護者との連携を深める。	生徒との面談は必要に応じて行い、保護者面談は年1回以上実施する。生徒の学校生活の様子は学期ごとに学年通信で知らせる。	4.0	4.0	
		学年団・学校内での情報共有を密にし、一人ひとりに応じた支援を通して生徒の心身の健全な育成を図る。	授業内外や行事等で生徒の様子を観察し、学年会等で情報共有を行う。また、保健相談部や生徒育成部と連携をとり、校内での支援を充実させる。さらに必要に応じて外部機関との連携など迅速な対応をする。	4.0	4.0	
		安易な遅刻・欠席をしないようにする。	保護者から欠席・遅刻の連絡がない場合は、その日の早い段階で担任から連絡をして状況を把握する。必要に応じて家庭訪問、面談などを行う。	3.7	3.3	
	学力の伸長	基礎・基本を重視した分かりやすい授業を通して、授業が第一という態度を育て基礎学力の定着を図る。	授業でのマナーを徹底し、プリントやICTなどを活用して分かりやすく、効果的な授業を展開する。	3.7	3.5	
		家庭学習の時間を増やし、課題や提出物の期限を厳守させ、学力を向上させる。	毎日SHRで翌日の時間割などを確認させ、家庭学習に臨ませる。	3.3	2.8	
		学習意欲を向上させ、主体的に学びに向かう姿勢を育み、進路に対する意識を高める。	EトJ等でスタスタを活用し小中学校からの復習を徹底させ、学習への苦手意識を軽減させる。また、知的好奇心を高める授業を計画的に行う。さらに、教室には進路情報を提供し、生徒に積極的に手に取るように促す。	3.0	2.8	
	教育環境の整備	掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切に する心を育てる。	掃除は毎日監督につき指導し、生徒が快適な学習環境を整える力をつける。机とロッカーの中を整理させ、ロッカー上と机上に何も残さない形で掃宅させる。	3.3	3.3	

令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言
2 学 年	育てたい生徒像	中堅学年としての自覚を持たせ、礼儀や場に応じた言動の指導を通して集団生活を営む力を向上させる。	始業時・終業時だけでなく、場に応じて適切な挨拶ができる習慣を身につけさせる。職員室や授業中の言葉遣いについてもその場で適切に指導する。	2.5	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や修学旅行などの行事を通して協調性や社会性が養われた面もあるが、基本的な生活習慣においては継続した指導が必要である。 ・年間を通して進路学習が不足していたため、進路学習の年間計画を進路と連携して計画し、実施できるとよかった。 ・教室の机の位置をテープで示し整頓させたことで、雑然とした空間から学びやすい空間へと変わった。 ・生徒の問題行動や不登校傾向の生徒に対して保護者と連絡を密にし、学年団で情報共有をしながら対応することができた。
		端正な身なり、提出物の期日厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせ、自他への敬愛と協力・共助の精神を身につけさせる。	容儀検査に1回で合格するよう指導する。再検査の場合も1回で合格するよう指導を徹底する。提出物の期限や授業開始の時間を厳守させる。	2.5	2.8	
		総合的な探究の時間やインターンシップを通して、地域や社会のために貢献する意識を高めさせる。	インターンシップや総合的な探究の時間において、地域に密着した学習を行う機会を4日以上設ける。	3.3	3.8	
		学校行事・部活動・生徒会活動に積極的に参加させ、集団への帰属意識の高揚を図る。	学級活動や学校行事では、生徒全員が一つ以上の役割を担うようにし、母校に誇りを持ち、主体的に取り組む意識を持たせる。	3	3.2	
	生徒基点の発想による一人ひとりを大切に する教育の実践	生徒や保護者との面談を積極的に行って情報を共有し、保護者との連携を深める。	学年団・学校内での情報共有、支援を通して生徒の心身の健全な育成を図る。必要に応じてHPに学年関連の記事をアップする。	3.5	4	
		素直で、思いやりにあふれる温かい人間関係の確立を通して自己肯定感を高めさせる。	保護者から欠席・遅刻の連絡がない場合は、その日のうちに担任から連絡をして状況を把握する。必要に応じて面談、家庭訪問などを行う。	3.3	3.8	
		支援の必要な生徒に対して迅速丁寧な対応をし、指導の個別最適化を図る。	生徒の生活・学習の状況を把握し、個々の到達度を学期毎に見直し支援する。	3.2	3.9	
	学習・進路指導の充実	基礎・基本を重視した分かりやすい授業を通して、基礎学力の定着を図る。	チャイムと同時に授業を開始し、ICTなどを活用して効果的な指導をする。	2.6	3	
		自ら学ぶ姿勢を身に付けさせ、家庭学習の時間を増やし、進路に対する意識を高めさせる。	Eトレに積極的に取り組ませ、学習への苦手意識を軽減させる。適切な進路情報を提供し、2学期終了までに各自の進路目標を設定させる。	2.5	2.5	
		インターンシップを通して、自己の適性や資質について理解を深めるとともに、オープンキャンパスや応募前見学に積極的に参加させ、進路に対する意識を高めさせる。	インターンシップにおいては個々の生徒を適切な事業所に配属し、80%以上の生徒が十分な達成感・自己肯定感を持てるようにする。各生徒が年度内に1回以上オープンキャンパス・応募前見学に参加するよう促す。	3.5	3	
	教育環境の整備	掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切に する心を育てる。	掃除は毎日監督と一緒に掃除を行い、生徒が快適な学習環境を整える力をさせる。机とロッカーの中を整理させ、ロッカーの上の私物を0にする。	2.8	3.1	

令和6年度 分掌・学年努力目標 [年間評価]

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	今年度業務の総括及び次年度に向けた提言
3 学 年	育てたい生徒像	最高学年としての自覚を持たせ、学校生活全般にわたって下級生の模範となる生徒を育てる。	授業や委員会活動、生徒会活動などに主体的に取り組み、進路実現に必要な学力・コミュニケーション力を育成する。	3.6	4	<p>○ 多くの先生方の指導・励ましのおかげで、進路実現に向けて覚悟を決めて取り組むことが出来た。結果も出すことができた。</p> <p>○ 入学時より支援が必要な生徒が学校生活に主体的に向かえるような体制づくりを進めてきた。授業や総探の活動に積極的に取り組み、自己肯定感を高めたり、自信を持たせることができ、一定の成果があった。</p> <p>○ 保護者との連携や相談部（SC・SSW）との連携が機能して生徒の成長をサポートすることが出来た。保護者自身も困難を抱えているケースもあった。</p> <p>○ 掃除や作業などにはコツコツ・さぼらず取り組むことが出来た。金曜日のゴミ回収も多くの生徒が自主的に動いてくれた。</p> <p>△ 今後は自分の力でやっていかなければならないことに対して、担任が一番不安を感じている。卒業時（ゴール）をどういった形で迎えるのか、それに向けた指導を定期的に確認しながらというのが、今後ますます求められる。</p> <p>△ 学力を向上させることがなかなかできなかった。また、一部の生徒は課題への取り組みが改善されず、なかなか提出できないまま、順位も下位に固定化した。特性故に指導が入らないという、指導上の困難さを感じた。学習すること・努力することへのやられ感・指示待ちな部分も見られ、進路指導にこれまでの倍近くの時間がかかった。</p>
		学校行事・部活動等に積極的に参加させ、下級生をしっかりリードする。	体育祭や部活動の運動部・文化部で中心的役割を担わせる。	3.8	4	
		端正な身なり、時と場に応じた挨拶や言葉遣い・表現などを身に付けさせ、自他への敬愛と協力の精神を育てる。	容儀指導に1回で合格する生徒が75%以上になるよう日頃から指導する。言葉遣い・表現については継続的に指導し、社会人として通用するレベルを身に付けさせる。	3.4	3.6	
	学習・進路指導の充実	受験に対応するために生徒の学力に応じたEトレ、学習会、添削指導等を行う。	目標の進路実現のために、志望先の受験に合わせた少人数教育や個別指導を充実させる。	3.5	3.4	
		家庭学習の習慣の定着を図るため、宅習プリント等の提出を徹底させる。	点検を行い、未提出の者に対しては粘り強く指導し、提出状況が改善するようにする。	3.3	3.3	
		生徒に適切な進路情報を提供し、進路に対する意識を高めさせ、目標とする進路実現の一助とする。	個人面談を随時実施し、進路情報を提供する。進路指導部と協力して、進路情報を学年通信に盛り込んで発行する（4回以上）。	3.5	3.6	
		生徒の進路について保護者との連携を密にする。	三者面談については、必要な生徒は2回以上実施する。	4	3.8	
	生徒基点の発想による一人ひとりを大切に する教育の実践	生徒や保護者との面談を積極的に行って情報を共有し、保護者との連携を深める。	学年会を月3回は実施するよう努め、学年団・学校内で情報を共有し、生徒への適切な支援を行う。必要に応じて保護者へ連絡を行う。	3.9	3.8	
		体調管理をしっかりさせ、規則正しい生活を送らせる。	学年の年間出席率98%以上を目指す。皆勤3名以上、年間無欠席19名以上を目指す。	3.8	3.7	
	教育環境の整備	掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切に する心を育てる。	掃除は毎日監督につき指導し、生徒が快適な学習環境を整える力をつける。机とロッカーの中を整理させる。	4	3.8	